

阿蘇ジオパークの魅力、より理解しやすく伝えるために、3つのテーマをもとにジオツーリズムをご紹介します。

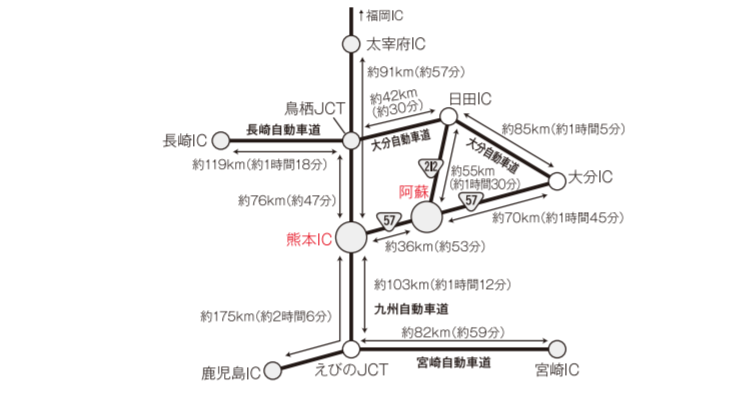
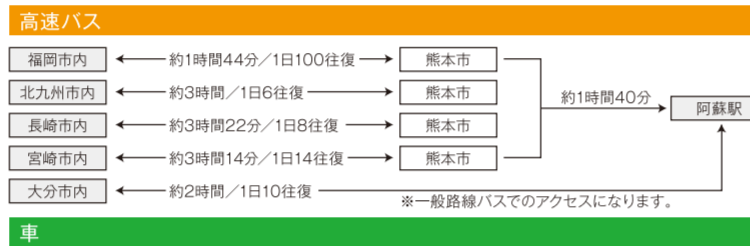
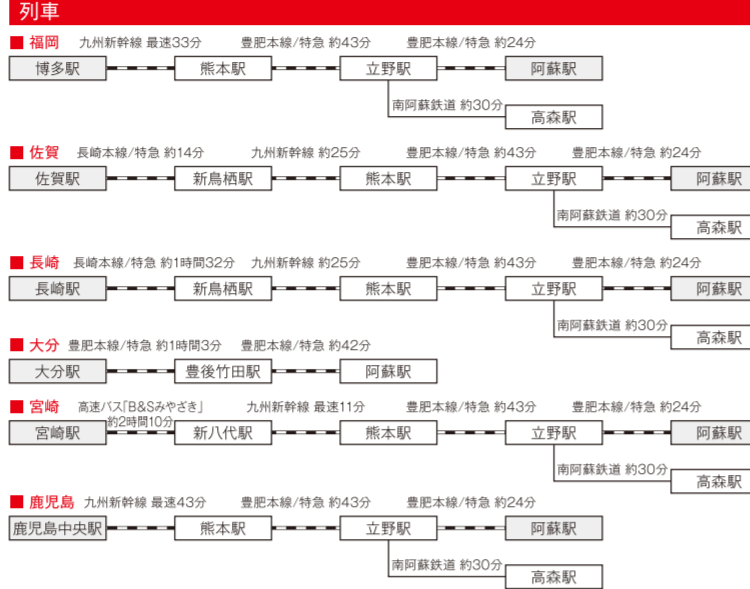


◎巨大カルデラに刻まれた噴火の記憶
阿蘇ジオパークの象徴である世界有数の巨大カルデラ。約27万年前以降の活発な火山活動と、約9万年前の大噴火によって形成された独特の地形や地層、噴火がもたらした日本各地への影響などを、ジオサイトを通じて理解していきます。

◎地球の息吹を間近に感じる中岳火山口
カルデラ内にある火山群の中でも、有史時代を通じて今日にいたるまで、活発な活動を繰り返してきた中岳火山口にスポットを当てます。中岳火山口に見られる周辺地域の特殊な景観、生態系、さらに活動火山と共生する人々の姿をご紹介します。

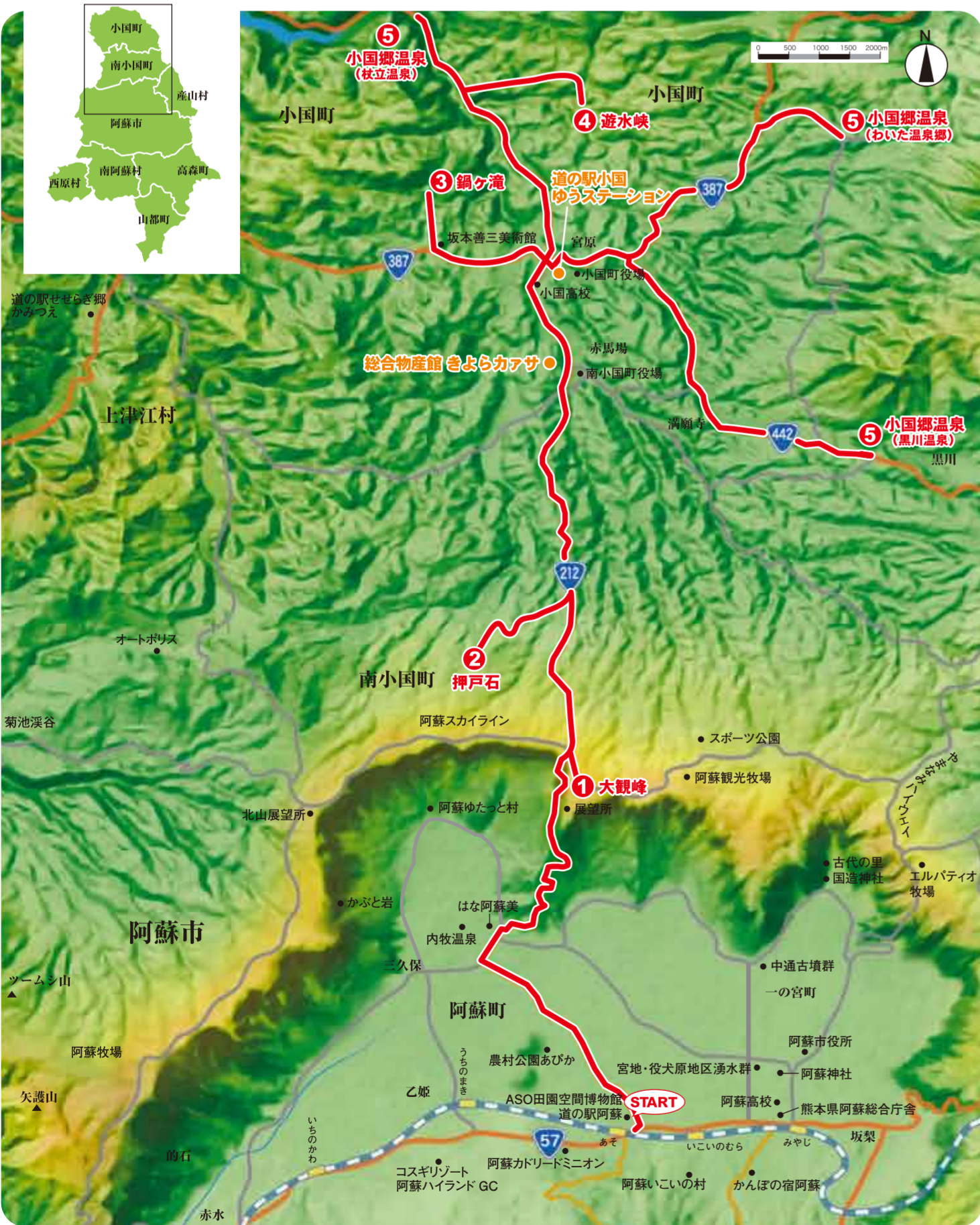
◎火山がもたらした恵みと人々の暮らし
活動火山とともに暮らす人々は、自然との共生をはかり、火山に畏敬の念を抱き、そして独自の文化・生活を築いてきました。また、火山地帯によく見られる湧水や温泉など、自然は人々に大きな恵みをもたらしてきた存在でもあります。

九州各県から阿蘇ジオパークへのアプローチ



【阿蘇ジオパーク推進協議会】 熊本県、阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山形町、阿蘇エコツーリズム協会、阿蘇自然少年交流の会、ASO田園空間博物館、阿蘇ミュージアム、なみの高原やすらぎ交流館、阿蘇自然少年交流の会、阿蘇文化情報館、阿蘇地質パークボランティアの会、阿蘇自然観察会、南小国町観光協会、小国ツーリズム協会、産山村観光協会、高森町観光協会、南阿蘇村観光協会、山形町観光協会、阿蘇火山博物館、熊本大学、京都大学火山研究センター、熊本地学会、熊本地質調査委員会、阿蘇の自然を愛護する会、自然公園財団阿蘇支部、阿蘇ジオパーク推進協議会、阿蘇地質パーク推進協議会、阿蘇青年会議所、くまもと21の会、日本リモナイト

阿蘇ジオパーク推進協議会
〒869-2232 熊本県阿蘇市赤水1930-1 阿蘇火山博物館1階
TEL.0967-34-2089 FAX.0967-34-2090 http://www.aso-geopark.jp
阿蘇ジオパーク 検索 平成23年度環境省地域コーディネーター活用事業



小国町の特産品と観光情報ならココ
道の駅小国 ゆうステーション
全面ガラス張りの2階建ての道の駅。1階は地元特産品の販売所で、2階はギャラリーや小国町の情報発信スポットになっています。
[TEL] 0967-46-4111

南小国町の自慢の特産品がずらり
総合物産館 きよらカアサ
ピラミッド型の建物が目印。野菜や山菜などの農産物をはじめ、ジャージー牛乳を使ったプリンなど、自慢の品が勢揃いしています。
[TEL] 0967-42-1213

世界有数のカルデラの成り立ちとその影響をたどる

約9万年前の大噴火によってできあがったといわれる阿蘇カルデラ。カルデラ内には約5万人の人々が生活し、阿蘇独特の文化が育まれています。美しいカルデラ地形や、火山や人々が作りだした景観を楽しみながら、阿蘇を体感できるコースです。



1 大観峰 (阿蘇市)
阿蘇五岳とカルデラを一望できるジオポイント。カルデラの地形を観察、実感することでカルデラ形成当時の噴火の規模やその影響について考えます。

2 押戸石 (南小国町)
標高845メートルの丘陵地にある安山岩の巨石群。最大の高さは5.5メートル、周囲15.3メートルの巨岩でピラミッド型をしています。この巨石群は、古くから岩座(いわくら)として地元の人々に大切に祀られてきました。この場所からは、北外輪の火砕流台地の草原景観を一望できます。

3 鍋ヶ滝 (小国町)
阿蘇火砕流堆積物の溶結凝灰岩にかかる滝。高さは約9m、幅は約25m。滝の落水している下部は奥行き数十mにわたってえぐられているため、滝を裏側からも見ることができます。

4 遊水峡 (小国町)
カルデラ北方の小河川に見られる岩盤河床で、阿蘇火砕流堆積物である溶結凝灰岩で形成されています。平時の水深は数十cm程度なので、夏の行楽地として人気の場所です。

5 小国郷温泉 (南小国町・小国町)
●黒川温泉 (南小国町)
昭和36年に湯治場の温泉地としてスタートし、今では全国的に有名になった黒川温泉。熱源は、九重火山系と考えられています。
●わいた温泉郷 (小国町)
はげの湯、岳の湯、麻生釣温泉、地獄谷温泉、山川温泉などからなる温泉群。これらの温泉は、九重火山の西麓に位置し、その影響を受けています。

●杖立温泉 (小国町)
杖立川沿いに湧出する九重火山系の温泉です。平安時代のはじめに旅の途中で訪れた弘法大師空海が温泉の効能に感銘したという言い伝えが残っています。

阿蘇火山の大地と人間生活。

九州の中部にある阿蘇カルデラは、東西約18km、南北約25km、面積は約350km²と、世界最大級の規模を誇り、このなかには現在も噴煙を上げ続けている中岳をはじめ、高岳、根子岳、杵島岳、烏帽子岳の阿蘇五岳と、多くの山体で構成される火山群があります。火山群の南北の山麓には平地が広がり、火山群と平地を取り巻く外輪山は外側になだらかな火砕流台地を形成しています。この阿蘇特有の地形をつくりだしているのは、約27万年前以降の活発な火山活動を繰り返してきた阿蘇火山です。阿蘇ジオパークにおける最大のテーマは、この阿蘇火山の大地がどのようにしてできたのかを学び、大地からもたらされる恵みを受け、人々がどのような生活を営み、特有の文化と景観を育んできたのか。阿蘇火山の大地の成り立ちと、人間生活の関わりに対する理解を深めることにあります。

■ジオパークとは
地球や大地の営みを科学的に観察し、地層や岩石、地形、火山、断層など、特別に貴重で美しい自然遺産が数多く存在する地域を、「ジオパーク(大地の公園)」といいます。ジオパークは、その保護と活用を重視し、そこで暮らす人々の文化を含めた自然遺産を通じて、ジオ(地球・大地)に親しみ、その成り立ちと仕組みに気づき、生態系や人間生活との関わりを考える場所なのです。ユネスコの支援によって2004年に設立された世界ジオパークネットワークによって、世界各国で推進されています。

